

香港の観光研究の潮流

3

公益財団法人日本交通公社 観光文化研究所 主任研究員

守屋 邦彦

香港における 観光研究の背景

香港は1997年までイギリスの統治下にあったことも影響し、人の往来が盛んな地域であり、2013年の香港の外国人旅行者受入数は2566万人であった。これは東アジアでは中国の5569万人に次ぐ第2位、アジアでも第4位であり、香港が世界有数の観光都市であることを示している。

人口700万人強の香港にとって、観光産業は経済的に大きな位置を占めていることから、大学は産業界と密接に連携しながら、実践的かつ専門的な観光教育を提供している。また、中国が旅行者マーケティングとして、さらにデステイネーションとして

近年急激に成長していることから、その中国のゲートウェイでもある香港は、こうした状況の変化も視野に入れながら観光研究が進められている。

香港には、政府が出資する大学(日本の国立大学に相当) および認可されている大学(日本の私立大学に相当) が十数校あるが、観光系のコースがある大学は、香港理工大学と香港中文大学の2大学である。しかし、香港中文大学では学士号までであり、修士号、博士号は取得できないことから、香港理工大学が香港の観光教育・観光研究の中心的な存在となっている。

そこで本稿では、香港理工大学ホテル・ツーリズムマネジメント学院(School of Hotel and Tourism Management)のケイ・チョン教授・学院

長(Professor/Dean Kaye Chon)へのインタビュー結果などをもとに、香港の観光研究の潮流を整理することとする。

香港理工大学ホテル・ ツーリズムマネジメント 学院の概要

香港理工大学は、1937年に初めて政府資金により設立されたGovernment Trade Schoolを前身とする。その後幾度かの改編・名称変更を経た後、1994年より現在のThe Hong Kong Polytechnic Universityとなっており、現在、学部・学院は8つ(図1)、学生数(フルタイム、パートタイム含む)は3万2229人である(2013年

図1 The Hong Kong Polytechnic University (香港理工大学) の学部・学院

[学部]

- Faculty of Applied Science and Textiles (応用科学&繊維服飾学部)
- Faculty of Business (ビジネス学部)
- Faculty of Construction and Environment (建築・環境学部)
- Faculty of Engineering (工学部)
- Faculty of Health and Social Sciences (健康・社会科学部)
- Faculty of Humanities (人文学部)

[学院]

- School of Design (デザイン学院)
- School of Hotel and Tourism Management (ホテル・ツーリズムマネジメント学院)

9月現在)。

ホテル・ツーリズムマネジメント学院は、1979年に設立されたDepartment of Institutional Management and Catering(組織管理・ケータリング学部)を前身とし、1992年にDepartment of Tourism Managementへ、2001年10月に現在の名称に変更され(ビジネス学部内の組織)、2004年に現在の独立し

図2 School of Hotel and Tourism Management (ホテル・ツーリズムマネジメント学院) が提供している課程

- [香港]**
- ◎ Doctor of Philosophy (Ph.D.) in Hotel and Tourism Management
 - ◎ Doctor of Hotel and Tourism Management (D.HTM)
 - ◎ Executive Masters in Global Hospitality Leadership
 - ◎ Master of Science (MSc) in International Hospitality Management
 - ◎ Master of Science (MSc) in International Tourism and Convention Management
 - ◎ Bachelor of Science (Hons) in Hotel Management
 - ◎ Bachelor of Science (Hons) in Tourism Management
 - ◎ Broad Discipline of Hotel and Tourism Management
 - ◎ Bachelor of Science (Hons) in Hotel Management (Convention)
 - ◎ Bachelor of Science (Hons) in Tourism Management (Convention)
 - ◎ Bachelor of Science (Hons) in Convention and Event Management (Convention)
 - ◎ Higher Diploma in Hotel Management
- [中国本土]**
- ◎ Doctor of Hotel and Tourism Management (D.HTM) in cooperation with Zhejiang University in Hangzhou
 - ◎ Master of Science (MSc) in Hotel and Tourism Management in cooperation with Zhejiang University in Hangzhou
 - ◎ Bachelor of Arts (Hons) in Hotel and Catering Management in cooperation with Xian Jiaotong University in Xian

た学院となった。
学院のミッションは、「ホスピタリティおよびツーリズム分野において、高品質の教育、研究、知識を提供し、

アジアのリーダー的教育・研究機関として世界的に認められること」とされており、学術から実務まで高いレベルの学位を提供している(図2)。

同学院の教員は、観光研究に関する各種テーマの研究について、世界のトップクラスと認識されている学術誌に投稿したり、頻繁に国際的な会議を主催したり、出席したりしている。こうした活動が、アメリカのコーネル大学に次いで世界第2位(注1)という、世界の観光研究をリードする存在としての評価にもつながっていると考えられる。

また、香港政府や産業団体さらには国際機関からの依頼で取り組む研究や、香港以外(中国本土を含む)での研究プロジェクトも多く実施されている。

主な観光研究のテーマ

香港理工大学ホテル・ツーリズムマネジメント学院の教員は各種テーマの研究を行っているが、これらはおおむね

以下の6つに分けることができる。

- ① Economics of Tourism (観光経済) — これには、将来予測や観光客満足度などの研究も含む
- ② Cultural Tourism (文化観光) — ヘリテージツーリズムを含めた、同学院の強い分野
- ③ China Tourism (中国の観光) — 香港は中国の一部であるので、中国に関しては、中国人旅行者の購買行動、訪問地決定のプロセスや意思決定への影響要因(同僚や家族、メディアの誰がどういった影響を及ぼすのか)、中国の観光活性化政策、コミュニティレベルや省レベルの観光振興計画、観光産業のレベルを高めるための教育など、さまざまな研究
- ④ Marketing of Tourism (観光マーケティング)
- ⑤ Information Technology and Tourism (ITと観光) — 同学院の強い分野
- ⑥ Event Tourism (イベントツーリズム)

これらの研究は、観光分野で世界的にも注目されているとともに、香港にとっても重要なテーマであることから同学院でも取り組まれている。

香港政府からの依頼で取り組む研究の例としては、香港で現在建設中である新たなクルーズターミナルのフィジビリティスタディや長期的なクルーズマーケットの動向研究が挙げられる。

産業団体からの依頼で取り組む研究の例としては、特別なコンサート・イベント会場のフィジビリティスタディが挙げられる。

また、UNWTO(国連世界観光機関)のような国際機関からの依頼で取り組む研究の例としては、香港をケーススタディとして、大量の中国人観光客が訪れることによる観光地への影響に関する研究が挙げられる。これは、各観光地とも、中国人観光客をもっと誘致したいという関心はあるものの、一方で社会的、文化的影響への懸念を抱いていることから、国際機関として調査を実施したものである。

観光研究の国際化に関する状況

同学院は20の国・地域出身の65人の教員が在籍し、国際的な学術誌への投稿や国際的な会議の主催・出席

といった活動を展開している。

こうした国際的な活動を展開できるベースは、教員採用・登用プロセスの仕組みにある。同学院の場合、まずは助教で採用（博士号を持っていないことが条件）され、6年後、准教授に昇進できるか、あるいは退職することになるかを評価されることになる。

その際の昇進の条件は、6年間で18本の論文が同学院の指定する国際的にトップクラスのジャーナルに掲載・掲載されることと、加えて、香港政府の研究資金（自ら提案するもので、依頼された研究ではないもの）を1つは獲得することとなっている。もちろん、これらはいくまでも研究面での要求事項であり、教育面でも優れた教員である必要がある。教育面については、同学院が採用しているのは学生による教員の評価システムの結果である。

また、同学院では資金面でもこうした国際的な研究活動を支援している。教員には毎年研究資金が支給されるが、新しく採用された教員には最初に10万HKD（約160万円）も支給される。こうした資金はアシスタントの雇用や国際的な会議への

出席費用に充てることができるが、金銭面での問題により研究が進められないという言い訳はできない環境となっている。

さまざまな海外プロジェクトの実施

同学院には世界中から各種の観光研究に関するプロジェクト実施依頼が来る状況となっており、同学院側が提案して実施するプロジェクトも合わせると、年間100件以上が実施されている。

具体的なプロジェクトとしては、例えば、ブータンのコミュニティ・ベース



写真1 Hotel ICON内の実習用キッチン。
壁には「English Only」の文字

ド・ツーリズムの開発プロジェクトやサウジアラビアの新たな観光教育プログラム開発などが挙げられる。

中国本土からもさまざまな依頼、問い合わせがあり、1人のスタッフが、自身の時間の半分を中国関係機関とのコミュニケーションだけに費やしているような状況である。全てに対応できないが、いくつかのプロジェクトについてはチームを形成して実施している状況となっている。

観光研究と実務の連携 — Hotel ICONの活用

Hotel ICONとは、同学院が2011



写真2 学生が運営するHotel ICON内レストラン「Bistro1979」

年に開業した、ホテルとしてのフルサービスを提供しながら、教育・学習・研究を融合させた世界初のホテルである。

同学院の学生は同ホテルでのフロントやレストランの実務研修が必須となっている。また、同ホテルは大学が運営していることから、ホテル全体、またホテル内のレストランの実際の経営を具体的に学ぶことができる（写真1・2）。こうした実務的な経験ができるようになったことで、自分でホテルやレストランを経営する卒業生が最近出てくるなど、学生の意識が、単に観光産業で「働く」ということから、観光産業で「ビジネスをする」という考え方にシフトしてきているようである。

同ホテルでは、研究結果の実務への応用も行われている。実践例として、欧米から香港に向かう飛行機は朝早く到着することが多いが、旅行者は到着後ホテルに行ってもチェックインができず、不便だといった状況があった。このため同ホテルでは早朝到着客に対応できるようラウンジを開設している。

あるいは、部屋のミニバーのチェックや補充に手間がかかっているとい

う調査結果から、最初に準備されているものは全て無料とする対応に切り替えることで効率化を図った。

宿泊客の観光情報などの受け取りやすさを向上させるため、部屋の電話をスマートフォンにし、部屋の外への持ち出しを可能にする（香港内でのみ利用可能に設定）などの取り組みを行っている。

観光研究において 今後注目すべき点

ケイ・チョン教授・学院長からは、国際的な視座で考えた場合に、今後注目すべき点として以下2点の例示があった。

一つ目は、人口構造の変化が人々の行動や意思決定にどのように影響を及ぼし、それが観光産業にどんな影響を与えるのかという点、

二つ目は、ソーシャルメディアなどITの発展が、人々の行動や意思決定にどのような影響を与えるかという点であった。

特に二つ目のITの発展については、近年多くの観光地において紙媒体の広告には多くの費用をかけず、ソーシャルメディアやデジタルマーケ

ティングにより多くの費用が投じられている。これはHotel ICONでも同様とのことであり、今後の観光研究のテーマとして、より効果的な費用の使い方、ROIなどの検討が挙げられた。

最後に、香港理工大学へのインタビュー訪問にあたりご協力いただいた、和歌山大学国際観光学研究センター（仮称）設置準備室プロジェクトコーディネーターの高嶋美姫氏（同大学ホテル・ツーリズムマネジメント学院にて修士取得）に、この場を借りて心より御礼を申し上げます。

（もりや くにひら）

（注1）「A World Ranking of the Top 100 Hospitality and Tourism Programs」(Denver E. Severt, Dana V. Tesone, Timothy J. Bortoff and Monica L. Carpenter) Journal of Hospitality & Tourism Research 2009 pp451-470

（注2）Return on Investment 投資利益率、投資収益率

Message

Professor Kaye Chon, PhD, CHE

Dean | school of Hotel and Tourism Management
Walter Kwok Foundation Professor in international Hospitality Management
The Hong Kong Polytechnic University



Asia Pacific is the fastest growing area in the world for tourism. This growth is not only in terms of quantity but also quality. This is apparent from the fact that the best airlines and airports in the world, as well as many of the best hotels, are located in Asia. Although Asia was a late starter in terms of tourism, it is now a global leader in terms of both quantity and quality. The centre of gravity of the world's tourism has started to move toward Asia.

In order to increase the level of tourism research across the whole of Asia, for example, it is necessary for researchers in Asia to share their research through publications in appropriate outlets such as journals and conference proceedings. It is commonly expected in the scientific communities that research is not completed until it is shared with the communities.

Although we know that a variety of research into tourism is being carried out in Japan, this has not been shared outside of the country. I believe that the level of international collaboration in Japan is still small. In order to make Japanese tourism research more international, there needs to be an increase in international collaboration.

アジア太平洋地域は、観光の成長が世界の中で最も速い。また、量的な面だけでなく質的な面でも成長していることは、世界最上位の航空会社、空港がアジアにあり、多くの世界最上位のホテルがアジアにあることから明らかである。アジアの観光は、スタートは遅かったものの、今や量的、質的に世界をリードしている。世界の観光の中心はアジアにシフトしてきたのである。

アジア全体で観光研究をレベルアップさせるために必要なこととしては、例えばアジアの研究者が、それぞれの研究成果をジャーナルや学会発表論集などの適切な方法で公開し、共有することが挙げられる。科学者のコミュニティでは通常、研究結果がコミュニティで共有されるまでその研究を終えていないと考えられている。

日本でもいろいろな観光研究が行われていることは知っているが、それらが海外で共有されておらず、国際的なコラボレーションもまだまだ少ないと思う。日本で観光研究をより国際化していくために必要なこととしては、もっと国際的なコラボレーションを増やすべきだと思う。

（編集室訳）